

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		弘中 和憲	所 属	農学部 地域農業工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学部4年生5人, 大学院2年生1人, 合計6名の指導する。 ・学部授業(「生物生産システム設計学」, 「卒業論文Ⅰ」, 「ポストハーベストテクノロジー」, 「バイオシステム工学実験Ⅱ」, 「卒業論文Ⅱ」, 大学院授業(「農産施設工学特論」)を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学部4年生5人, 大学院2年生1人, 合計6名の指導した。・学部授業(「生物生産システム設計学」, 「卒業論文Ⅰ」, 「ポストハーベストテクノロジー」, 「バイオシステム工学実験Ⅱ」, 「卒業論文Ⅱ」, 大学院授業(「農産施設工学特論」)を行った。 	
研究	0.70	<ul style="list-style-type: none"> ・日本食品保蔵学会の評議員として, 任務を遂行する。 ・農業施設学会理事として, 任務を遂行する。 ・南方資源利用技術研究会理事として, 任務を遂行する。 ・農業食料工学会の評議員として, 任務を遂行する。 		0.70	<ul style="list-style-type: none"> ・日本食品保蔵学会の評議員として, 任務を遂行した。・農業施設学会理事として, 任務を遂行した。・南方資源利用技術研究会理事として, 任務を遂行した。・農業食料工学会の評議員として, 任務を遂行した。 	
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスで公開実験を行い, 高校生に科学の面白さを伝える。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスで公開実験を行い, 高校生に科学の面白さを伝えた。 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生指導委員を務める。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生指導委員を務めた。 	
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次学生の就職支援(企業紹介)を行う。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次学生の就職支援(企業紹介)を行った。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鹿内 健志	所 属	農学部 地域農業工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	学部担当科目(農業情報工学, 農業電気電子工学概論, 農業生産システム論等), 大学院講義(農学研究の方法)を担当し, ICTを活用し, 予習・復習を効果的に進める授業やアクティブラーニングを実施する。2年次指導教員として修学指導・相談を行う。		0.40	Learning Management System (Webclass)を効果的に活用し, 学部担当科目(農業情報工学, 農業電気電子工学概論等), 大学院講義(農学研究の方法)を担当した。教職科目(「農業科教育法Ⅰ」, 「教職実践演習」)については県内高等学校と協力し, 効果的に実施することができた。2年次指導教員としてコース配属等に際し相談に対応した。	
研究	0.25	科学研究費による学外研究者との共同研究を進め, その研究成果を学会・論文等で発表する。		0.25	科学研究費の研究成果を「Analysis of Working Performance of Small and Medium Size Sugarcane Harvesters by Using GPS」のタイトルで国際学会で研究報告を行った。	
社会貢献	0.15	公開講座を実施する。沖縄で開催される日本オペレーションズ学会の60周年記念大会の運営を行う。		0.15	2016年8月20日に「初めてのExcelのVBAプログラミング」の公開講座を実施し, 20名の申し込みがあった。2017年3月15-17日に日本オペレーションズ学会の60周年記念大会を実施予定。	
管理運営	0.20	グローバル教育支援機構アドミッション部門 企画・開発セクション長として, 大学のアドミッションポリシーの見直し等を進める。農学部の委員会活動等に積極的に参加する。		0.20	グローバル教育支援機構アドミッション部門 企画・開発セクション長として, 琉球大学の3つポリシーの見直し等を行った。また, 高大接続システム改革にむけて, 米国の大学の視察を行い, 報告をとりまとめる予定。農学部の安全衛生委員, 教育委員, 学士教育プログラム委員等として委員会活動を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 英三	所 属	農学部 地域農業工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学部担当科目で農業環境計測工学, 生物資源プロセス工学, 生物材料工学を行うとともに, 関連する実験や演習を担当する。学生の理解度に合わせた解説を行い, 基礎知識・技術の習得ができるように努める。学部学生, 修士学生が卒業研究で必要な実験や学習を指導する。		0.30	共通科目「情報科学演習」, 学部専門科目「農業環境計測工学」等, 大学院科目「食品工学特論」等を担当し, シラバスに沿って授業を行った。講義時間外, オフィスアワー以外の時間でも質問を受け付け, 学生の基礎知識の習得ができるよう努めた。また, 卒業研究や修士学生の指導補助を行った。	
研究	0.40	これまでの研究成果について, 国内外で研究発表を行う。また, 海外研究者との交流をはかり, 質の高い研究の推進に努める。研究成果を論文等にまとめ, 成果の公開と研究発展に努める。		0.40	近赤外分光法を主とする計測技術の研究を行った。これまでの成果をとりまとめ, 2編の研究論文が学会誌に受理された。また, 近赤外分光法に関する国際セミナー開催や解説記事を執筆するなど, 研究分野の発展に努めるとともに海外研究者との交流を図った。	
社会貢献	0.20	県内企業, 試験研究機関等と連携し, 共同研究を積極的に行う。特にサトウキビの価格取引に関して, 沖縄県と鹿児島県の製糖関係者と連携し, 品質評価システムを運用する。また, 沖縄県や農業団体と協力し, 沖縄産果樹のブランド化に関する研究を推進し, 産地強化のための情報を提供する。		0.20	製糖工場で運用されるサトウキビ品質評価システムの維持業務を行うとともに, その管理に関する情報提供を行った。また, 老朽化に伴うシステム更新に向けた共同研究を実施した。市町村やJAと協力し, これまで開発した非破壊センサーについて説明し, 今後の活用を検討した。	
管理運営	0.10	部局内の委員会活動をはじめ, 管理運営活動を行う。		0.10	入試や学部内委員会活動を行うい, 学部の管理運営に関する活動に積極的に協力するよう努めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		酒井 一人		所 属		農学部 地域農業工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成30年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成30年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.50	前期(応用数学、地域環境基礎演習I、水文気象学、外国後文献、数学・力学演習)、後期(水資源工学、水利環境学)を担当する。学生の進路、特に進学に関する進路指導を行う。				0.50	左記の授業科目について、担当者としての責務を果たした。さらに、今後講義における学生の主体性を上げる工夫が必要である。学生の進路指導において、大学院への進学指導を行ったが十分な説明ができなかった点は反省の余地がある。				
研究	0.30	査読付き雑誌への投稿を行う。共同研究(ソルガム栽培実験)において責務を果たす。				0.30	共著者としての論文が受理された。				
社会 貢献	0.10	沖縄県および総合事務局の委員会における責務を果たす。				0.10	左記の委員としての責務を果たした。				
管理 運営	0.10	農学部本館改修のまとめ役としての責務を果たす。				0.10	最低限の責務は果たせたと考える。しかし、連絡の遅れなどWGメンバーに迷惑をかけることがあった点は反省が必要である。				
							学生の進路指導において、大学院への進学指導を行ったが十分な説明ができなかった点は反省の余地がある。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲村渠 将	所 属	農学部 地域農業工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.45	(1)学部講義科目「水理学」における反転授業の実施 (2)大学院講義科目「水利環境学特論」における現地授業の実施 (3)農業水利施設の撮影		0.45	(1)計63本の自作動画教材を事前に配信し反転授業を実施できた。自作動画教材については、昨年度版のほぼ全てを修正して使い、15回の授業を終えるまで連日のように教材作成に追われた。次年度も同様の状況になると予想している。講義での解説に導入した実験が少なかったため、次年度には多くなるよう工夫したい。 (2)沖縄における農業用水の現状を本物の農地を訪れてその場でディスカッションすることができた。受講した院生を刺激することができ、私自身にとっても良い勉強になった。 (3)本土出張の際、付近の農業水利施設まで足を運んで静止画・動画を撮影することができた。畑作地帯の沖縄では見られない水田地帯の農業水利施設であることから、今後の授業の教材として活用する。	
研究	0.09	(1)農業農村工学会応用水理研究部会への発表参加 (2)日本雨水資源化システム学会委員会の任務への取り組み(一式) (3)農業農村工学会九州沖縄支部代表幹事の任務への取り組み(一式) (4)農業農村工学会応用水理研究部会代表幹事の任務への取り組み(一式) (5)科研費・助成金への応募		0.09	(1)農業農村工学会応用水理研究部会に参加し、発表を行った。 (2)日本雨水資源化システム学会委員会の任務に取り組み、会議での審議を行った。 (3)農業農村工学会九州沖縄支部代表幹事の任務に取り組み、会議での審議を行った。 (4)農業農村工学会応用水理研究部会代表幹事の任務に取り組み、会議での審議を行った。 (5)科研費に応募した。平成29年度産学官金共同研究スタートアップ事業に採択され、研究を行った。	
社会 貢献	0.01	沖縄県多面的機能支払交付金第三者委員会の任務への取り組み(一式)		0.01	沖縄県多面的機能支払交付金第三者委員会(平成30年2月23日開催)の任務に取り組み、委員長を務め、各地の成果を審査し、質問・助言・意見を述べた。	
管理 運営	0.45	(1)学生生活委員会への参画(一式) (2)全学広報委員会への参画(一式) (3)農学部広報委員会への参画(一式) (4)農学部附属施設の兼務教員及び運営委員会への参画(一式) (5)入試の試験監督(一式)		0.45	(1)学生生活委員会の任務に取り組み、会議での審議を行った。 (2)全学広報委員会の任務に取り組み、会議(UIが主なテーマ)での審議を行った。 (3)農学部広報委員会の任務に委員長として取り組み、高校訪問・オープンキャンパスを完了させた。農学部ウェブサイトの管理・運営を検討することが直近の課題となっている。 (4)農学部附属施設の兼務教員及び運営委員会の任務に取り組み、授業1コマ、会議での審議を行った。 (5)センター試験・3年次GTEC試験監督業務を完了させた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		瀬戸内 秀規	所 属	農学部 地域農業工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	授業科目として、農村基盤施設学、材料・コンクリート工学、応用力学、工学の力学、施設工学、土質力学、卒業論文をJABEEの教育目標に沿った水準、内容で提供する。修士課程においては、地盤工学特論、土質改善学特論、生産基盤工学特別研究Ⅰ、Ⅱ及びⅢを担当する。 年次指導教員とし、て学生の生活状況確認および卒業生の就職の斡旋を行う。		0.35	農村基盤施設学、材料・コンクリート工学、応用力学、工学の力学、施設工学、土質力学、卒業論文の授業科目について中間試験ならびに添削の実施により受講生の学習達成度を確認するとともに、URGCCおよびJABEE目標の水準の授業を展開した。また、プレゼン、配布資料などの充実さらに証拠資料の作成などに努めた。 3年次指導教員として、生活状況確認および就職などについて指導した。	
研究	0.30	土砂災害に伴う地形変状を巨視的に予測し得る力学地形モデルの構築のための研究を進展させる。科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けて取り組む。		0.30	土砂災害に伴う地形変状を巨視的に予測し得る力学地形モデルの構築のための研究を進展させた。科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けて取り組んだ。	
社会貢献	0.10	研究成果の学術雑誌への投稿および学会発表を進めることにより社会貢献に努める。 オープンキャンパスに向けた研究室の紹介等の準備および対応に取り組む。		0.10	1編の学術論文が機関誌に掲載され研究成果を社会に公表した。 大学オープンキャンパス、卒業論文ポスターセッションに関する準備公開を行った。	
管理運営	0.25	委員会委員とし、本学および本学部の管理運営に努める。		0.25	委員会委員として、本学および本学部の管理運営を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	中野 拓治		所属	農学部 地域農業工学科	
職名	教授		名	教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部専門科目として、農村農地環境概論、農村農地整備学、環境情報学、農村計画学、測量学、測量学実習、応用測量学Ⅰ、応用測量学Ⅱ、地域環境基礎演習Ⅲ、防災工学総合演習、外国文献講読(分担)等を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。学部共通教育として、沖縄の農業・農村と農地水環境、食料・農村・環境概論、また、大学院研究科目として、農地工学特論、農村環境保全学特論、環境情報特論等を担当するとともに、1年次指導教員を務める。		0.30	学部専門科目として、農村農地環境概論、農村農地整備学、環境情報学、農村計画学、測量学、測量学実習、応用測量学Ⅰ、地域環境基礎演習Ⅲ、防災工学総合演習等を担当し、COCプログラムと連携して、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行った。学部共通教育として、沖縄の農業・農村と農地水環境、食料・農村・環境概論、また、大学院研究科目として、農村環境保全学特論、農学研究最前線(分担)等を担当し、シラバスに沿って講義を実施した。1年次指導教員を務めることで、学生の各種相談・支援に対応した。
研究	0.40	研究関連分野の学会講演会等で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を投稿する。また、科研費研究(畑作物における処理水・消化液のリスク評価と作物生育への関与の解明(基盤C:代表)、集落排水汚泥と汚泥再利用過程における生活排水由来医薬品の存在実態と対策手法の解明(基盤B:分担)を研究計画に従い進める。共同研究(新日鉄住金エンジニアリング株式会社、沖縄環境株式会社、(株)シグマテック、国場組)を行い、農村環境保全に係る研究に取り組む。受託研究として、農業集落排水(金武町、恩納村、上富田町)、ソーシャルキャピタル(西原町)等のテーマに係る研究活動に取り組む。さらに、第23回 地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究会(沖縄大会)の実行委員会委員長として大会運営に取り組むとともに、農業農村工学会九州沖縄支部顧問、農業農村工学会農村計画研究部会副会長、水環境学会熱帯・亜熱帯水環境研究委員会幹事長、水環境学会九州沖縄支部副支部長等を務め、学会活動に貢献する。		0.40	研究関連分野の学会講演会等(日本水環境学会年会・シンポジウム・九州沖縄支部大会、農業農村工学会全国大会・九州沖縄支部大会、地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究会)で研究報告を行うとともに、農業集落排水、汚染土壌浄化、さんご礁生態系に係る研究論文を投稿し、3編が原著論文として掲載された。科研費研究(畑作物における処理水・消化液のリスク評価と作物生育への関与の解明、集落排水汚泥と汚泥再利用過程における生活排水由来医薬品の存在実態と対策手法の解明)を実施するとともに、共同研究を通じて、農村環境保全に係る科学的知見の積み上げと研究成果の実用化に向けた取組みを行った。受託研究として、農業集落排水とソーシャルキャピタルに係る研究成果の実用化や地域貢献への取組みを実施した。農業農村工学会九州沖縄支部顧問、農業農村工学会農村計画研究部会副会長、水環境学会九州沖縄支部副支部長等を務め、学外学会活動に貢献し、第23回 地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究会(沖縄大会:H29年11月9～12日)を開催した。
社会貢献	0.15	オープンキャンパスでの研究室公開や公開講座・出前授業の企画・実施を通じて、学外に積極的に農業と環境の関わり、人材育成を通じた地域創生、琉大農学部役割等を発信する。教員免許更新講習を通じて、琉大農学部地域農業工学に関与する科目を提供する。また、農地水環境保全活動(糸満市)やソーシャルビジネスプロジェクト活動(西原町)に参画するとともに、沖縄本島南部地域水循環、与論島さんご礁再生保全、汚染土壌浄化、農業集落排水施設に関する研究成果について関係者・関係行政機関に助言や講演会・研究会等での講演を行う。放送大学沖縄学習センター客員教授として、講義・学習相談等により生涯教育活動を行うとともに、西原町の学識経験者委員、農業土木総合研究所の専門研究員等として学外での社会貢献に努める。		0.15	オープンキャンパスでの研究室公開や公開講座「沖縄の農業・農村と農地水環境」、「高校生が学ぶ食料と水環境問題」、中部農林高等学校・南部農林高等学校への出前授業の企画・実施した。教員免許更新講習「沖縄における人々の暮らしと水との関わり」を通じて、琉大農学部地域農業工学に関与する科目を提供した。また、農地水環境保全活動(糸満市)やソーシャルビジネスプロジェクト活動(西原町)に参画するとともに、沖縄本島南部地域水循環、与論島物質循環・海域環境、汚染土壌浄化、農業集落排水施設に関する研究成果について関係者・関係行政機関「環境省、沖縄総合事務局、沖縄県、沖縄本島南部土地改良区、金武町、恩納村、与論町、西原町、糸満市、和歌山県上富田町等」に助言や講演会・研究会等での講演を行った。放送大学沖縄学習センター客員教授として、講義・学習相談等により生涯教育活動を行うとともに、西原町の学識経験者委員、農業土木総合研究所の専門研究員等として学外での社会貢献に努めた。環境省与論島モデル事業に参画し、農業集落排水事業推進連絡会議現地研修会(H30年1月19日)や環境省与論島モデル事業講演会(H30年2月21日)の講師として講演を行った。さらに、新日鉄住友エンジ(株)、(株)国場組等の民間企業等と連携した研究会活動を実施した。これらの取組等を通じて、技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行い社会貢献活動を実施した。
管理運営	0.10	学科長と学部各種委員等を務め、大学・学部の管理運営に積極的に参画する。		0.10	学科長と学部各種委員等を務め、大学・学部の管理運営に寄与した。
進路指導	0.05	公務員志望の学生を対象にした講演会・進路相談会の企画を通じて、学生の進路指導を積極的に行うとともに、技術系コンサルタント会社等の民間関連会社との就職に係る情報・意見交換会等の企画する。		0.05	公務員志望の学生を対象にして、3回の外部講師(沖縄県庁、沖縄総合事務局職員)による講演会・進路相談会を企画・実施した。また、技術系コンサルタント会社を対象にした講演会・進路相談会を2回実施した。これらの取組を通じて、学生の進路指導を積極的に行い、就職に係る情報提供・支援に努めた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		中村 真也		所 属		農学部 地域農業工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.30	JABEEの基準の授業を行う。授業では、研究成果や具体例を示して学生の理解と意欲の向上を図り、亜熱帯地域特有の関連事象も教授する。学生に求める読書量及び記述量を増やし、読解力、記述力及び考察力の一層の向上を図る。試験においては考える力を問うようにする。進学指導・就職支援として、4年次指導教員およびキャリア実習世話役を務める。学生サークル「おきなわ食・農研究会」を支援する。				0.30	JABEE教育プログラムを担当した。土地環境保全学において、熱帯・亜熱帯地域の関連事象を教授し、研究成果を取り入れた授業を行った。複数の授業において、学生の読書量及び記述量が増えるようなレポートを課した。試験においては、考える力を試す問題を増やした。キャリア実習の世話役および4年次指導教員を務める。学生サークル「おきなわ食・農研究会」の顧問として各種活動を支援した。				
研究	0.30	学長リーダーシップ研究プロジェクトをPIとして推進する。研究成果について、査読付学術誌への投稿、国内外の学会での発表を通じて公表する。民間企業との共同研究を遂行する。研究成果に基づく知財の社会実装を試みる。				0.30	学長リーダーシップ研究プロジェクト「環境条件を勘案した土地の整備と管理：しなやかで強い地域づくりに向けて」をPIとして推進し、特命助教を採用した。国外学術誌に論文1編を投稿した。国内の学会およびシンポジウム、それぞれ2回ずつ研究発表を行った。九州北部豪雨土砂災害の日本地すべり学会現地調査員を務め、国内学術誌にて調査結果を公表した。日本地すべり学会の演者として日本学術会議熊本地震一周年報告会にて研究調査報告を行った。また、鹿児島大学大学院農学研究科の先進的研究推進事業経費を獲得し「地すべり発生早期検知を実現するIoT減災クラウドシステムの構築」を実施した。				
社会貢献	0.15	行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行う。沖縄総合事務局、沖縄県、公的機関等の委員会や研究会に参画する。教員免許状更新講習1科目を提供する。糸満市土地改良事務所ほかと連携した教育活動を通じてよりよい地域づくりを支援する。沖縄土木技術者交流会の勉強会を開催し、沖縄県内技術者の技術力向上を支援する。(公社)日本地すべり学会の理事及び九州支部事務局長を務める。				0.15	教員免許状更新講習の講師を務めた。沖縄県立球陽高校スーパーサイエンスハイスクール事業の運営指導員を務めた。糸満市立真壁小学校および米須小学校において出前授業の講師を務めた。行政・企業の求めに応じ技術コンサルティング・サポートを行った(沖縄総合事務局開発建設部、沖縄県土木建築部、南城市、(株)環境サイエンス)。沖縄総合事務局の国営宮古土地改良事業計画専門技術者および農業農村整備事業等補助事業事後評価技術検討会委員長と、沖縄県公共事業評価監視委員会、沖縄県公共工事入札契約適正化委員会、農水省・農業農村工学会長期供用ダム小委員会等において委員を務めた。(公社)日本地すべり学会の理事及び九州支部事務局長を務めた。沖縄斜面調査研究会技術顧問、沖縄土木技術者交流会副会長を務め、後者の勉強会計4回を開催した。				
管理運営	0.25	副学部長および鹿児島大学大学院連合農学研究科代議員を務める。全学および学部の各種委員を務める。入試関連業務について割当分を担当する。				0.25	全学的戦略ポスト再配分審査委員、人的資源再配分検討委員、島嶼防災研究センター運営委員等の全学委員を務めた。鹿児島大学連合農学研究科の代議委員、農学部の副学部長、将来計画委員、教育委員、自己評価委員、初年次能動学習WG委員等を務め、入試関連業務について割当分を担当した。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		木村 匠	所 属		農学部 地域農業工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	<p>担当授業について、シラバスに沿った授業展開を心がけ、JABEEの基準を満たす授業を行う。基礎的な教養に加えて、研究成果を取り入れた具体例の紹介を行い、学生の理解度と修学意欲の向上に繋がるよう努める。また、学生の情報収集、情報の適切な使用と記述に関する能力向上を目的とした課題や試験の実施に努める。 年次指導教員として、1年次学生の修学支援と進路指導を行う。</p>		0.35	<p>JABEE教育プログラムの授業を分担担当し、シラバスに沿って授業を行った。土の物理学において、土の理工学特性のような微視的視点と農村農地環境のような巨視的視点を行き来する展開を心がけた。グループワークによる授業内活動や予習・復習に関わる課題を課した。年次懇談会を定期的に行い、1年次学生の修学状況の把握と進路指導を行った。 国際農学プログラムにおいて、スリランカ研修の学部生の引率を行った。</p>
研究	0.45	<p>実験研究の基盤整備と学内外の共同研究ネットワークの構築に取り組む。研究成果について、査読付学術雑誌への論文の投稿・公表、学会発表を行う。また、科学研究費や財団等の競争的資金の申請を行う。 国立研究開発法人 産業技術総合研究所の客員研究員(招へい型)としての責務を果たす。</p>		0.40	<p>実験研究の基盤整備と学内外の研究ネットワークの構築のため、情報収集を中心に活動した。また、研究基盤センターの企業セミナーにおける講師を招へいた。研究成果について、3編の論文を投稿した(査読付学術誌)。九州北部豪雨土砂災害の(公社)日本地すべり学会現地調査員を務め、調査結果を公表した(査読付学術誌)。国内学会九州支部の技術検討会で講演を行った。国内学会シンポジウムにて情報収集を行った。農業土木学における防災分野研究についての科学研究費の申請を行った(不採用)。産業技術総合研究所の客員研究員として責務を果たした。</p>
社会 貢献	0.10	<p>(公社)日本地すべり学会九州支部の活動や運営事務局の業務に携わり、斜面災害関連技術者の技術向上のための基盤作りに貢献するよう努める。</p>		0.10	<p>日本地すべり学会の代議員および日本地すべり学会九州支部の幹事に任命された。日本地すべり学会九州支部学術講演会および九州支部技術検討会の運営事務局を務めた。平成29年度地盤工学会九州支部学生賞審査員を務めた。SSH探究Ⅱ(球陽高校)アドバイザーとして、テーマ検討会や校内発表会に参加すると共に、土砂災害をテーマにしたグループの研究室見学と現地見学の受け入れを行った。</p>
管理 運営	0.10	<p>農学部広報委員等の各種委員会委員を務める。入試関連業務について割当分を担当する。</p>		0.15	<p>農学部の広報委員、地域貢献支援委員、学術報告編集委員、改修WG委員を務めた。入試関連業務について割当の担当を務めた。</p>
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安元 純	所 属	農学部 地域農業工学科	職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学科科目として、測量学実習(分担)、応用測量学Ⅰ、応用測量学Ⅱ、地域環境実験Ⅰ(分担)、製図(分担)、卒業論文Ⅰ、Ⅱを担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、教職科目の、情報科学演習9組、10組(分担)を担当する。農学研究科では「亜熱帯農学特別演習Ⅰ」と修士1年の副指導を担当する。また、進路指導担当教員として、学生の就職活動を積極的にサポートする。		0.30	学科科目として、測量学実習(分担)、応用測量学Ⅰ、応用測量学Ⅱ、地域環境実験Ⅰ(分担)、製図(分担)、卒業論文Ⅰ、Ⅱを担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、教職科目の、情報科学演習9組、10組(分担)を担当した。農学研究科では「亜熱帯農学特別演習Ⅰ」と修士1年の副指導を担当した。また、進路指導担当教員として、学生の就職活動を積極的にサポートした。		
研究	0.50	農業農村工学会等の研究関連分野の学会講演会等(日本地下水学会春季・秋季大会、農業農村工学会全国大会、国際学会等)で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を1報程度投稿する。今年度は科研費基盤(C)(代表)、基盤(B)(分担)、基盤(B)(分担)、基盤(C)(分担)の研究を遂行する。また、学内研究プロジェクト推進経費に代表者と応募すると共に、関連の研究助成に共同研究者と共に積極的に応募する。		0.50	農業農村工学会等の研究関連分野の学会講演会等(日本地下水学会秋季講演会、農業農村工学会全国大会、国際学会AGU)で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を2報投稿した。科研費基盤(C)(代表)、基盤(B)(分担)、基盤(B)(分担)、基盤(C)(分担)の研究を遂行した。また、平成29年度JST「科学技術コミュニケーション推進事業」関に共同研究者と共に応募し採択され、地域課題解決に向けた研究活動を実施した。		
社会 貢献	0.10	オープンキャンパスにおいて、研究室を公開する。行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行うことで社会貢献に努める。また、学会の委員や研究会等を通じて、学外学会活動に貢献する。		0.10	オープンキャンパスにおいて研究室を公開し、訪れた高校生に研究内容についての説明を行った。また、行政(沖縄県、八重瀬町)・企業(南部水道企業団・沖縄環境科学センター・建設技術研究所等)の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行った。また、公益社団法人日本地下水学会の代議員、調査研究委員及び男女共同参画委員として社会貢献に勤めた。		
管理 運営	0.10	学部及び学科の委員を務める。		0.10	図書運営委員会、進路指導委員会、亜熱帯フィールド科学教育研究センター運営委員会、亜熱帯フィールド科学教育研究センター地域連携協議会などの農学部の管理運営に参加した。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			